

父の給料明細

岡山県立倉敷天城中学校 2年 藤原 健真

僕の父は会社員だ。毎月母に給料明細という紙を渡している。僕は幼い頃からこの給料明細に強い興味を持っていた。毎月見せてとしつこくお願いしても、どうしても見せてくれず、中学二年生になっても見せてくれることはなかった。

夏休みの作文の宿題をもらった日は、偶然父の給料日だった。帰宅した父はすぐ、母に給料明細を渡した。母はそれを開き、こう言った。

「税金で引かれている部分が全部お給料だったらいいのにな。でも税金で世の中が回っているんだよね。」

このセリフは給料日に母がよく言っているので、給料から税金が引かれているということは知っていた。そこで僕はひらめいた。

「夏休みの宿題で税についての作文を書こうと思うから、将来の勉強のためにも給料から税金がどれくらい引かれているか見せてくれない？」

と頼んでみた。すると、絶対に他人に内容を話さないという条件で見せてくれることになった。小さい頃からずっと見たかった秘密の紙を見るので、ドキドキした。

僕はその日初めて父の給料の額を知り、同時に税金が自分の想像よりも高いことにおどろいた。父はニュース等でよく見る日本の平均年収も税金が引かれる前の額だと教えてくれた。それを聞き、僕はすごく損をしているような気持ちになった。続けて父は、コロナウイルスの給付金も税金から支払われていること、仕事を失った人や給料が減ってしまった人の命綱にもなるお金だということも教えてくれた。

父の話で、税金は国民のために役立つように使われていることが理解できた。父の給料明細で損をしていると思っていた税金も、世の中のためであり父の納めた税金は世の中に役立っているのだと実感した。

母からは、家や車を所有すると一年に一度納税しなければならないこと、その税金で行政の便利なサービスを受けられることを教わった。給料明細にある税金の他にも、僕が知らない税金が沢山あることにおどろいた。

両親の話聞いた後は、最初に感じた損をしているという感覚は消えていた。税金が世の中に役立っていると理解できたからだと思う。

税金を納めることは幸せに暮らすことに必要不可欠なことで、困っている時に助けてもらえる制度もたくさんあると知り、損をしていると考えた自分が恥ずかしくなった。

僕も将来は働き、もらう給料から納税するだろう。納税は直接ではないが、世の中に役立つことだと思っている。

僕も父のように真面目に働き、納税して社会に貢献できるようがんばっていきたいと思う。